



藤原、鎌倉、室町といった、古い時代の仏像、神像を
威王感なくディスプレイ。手前の棚は李朝時代の螺鈿入り箆笥。
根来の膳の上にあるのは黒高麗の徳利。「私好みで、悩みます」



左/室町時代の水滴は、鼻にあたる穴から水
が出て、細いくちばしを伝って水が滴り落ち
る仕組み。掌に載る愛らしい品だ。

右/紀元前6世紀ごろのアビス(牡牛)の像。緑青の付きが絶妙で、姿も愛らしい。
「知識よりも、好きか嫌いかで選んでいただけたらと思います。好きなものは、愛着
もありますし、集めているうちに何か自分の好みが見えてくると思います」とご主人。



ご主人の富永さんは、毎週買い付け
に行っているで、常に新しい品と
の出合いがある。奥様の眞喜江さん
がつくる古製の仕履も、密かな人気
アイテム。客層は幅広いが、20~40
代が不思議と多いそうだ。
●こびじゅつとうせい
東京都中央区銀座7-10-8第五太陽ビ
ル1F
☎03・3571・1233
◎11時~19時 月、第1、第2日曜休

平松洋子さんがおすすめの 愛着の逸品が見つかる 骨董店

東京で骨董店のメッカといえば、日本橋、京橋界隈。
そこから目と鼻の先にある銀座には、新しい感性が光る魅力的な
骨董店が点在しています。使える骨董の目利きでもあるエッセイストの
平松洋子さんが、お気に入りの3軒をご紹介します。撮影 阿部浩

女の銀座最前線3

古美術
桃青



二畳中板の小さな茶室は、ご主人・富永民雄さんの念願。土壁、琉球畳の心地よい空間だ。奥様の眞喜江さんと談笑する平松さん。
きものは、伊兵衛工房のもの。帯は柳崇・作の吉野格子名古屋帯。「ご主人の自慢のお茶道具を楽しめるなんて、とても贅沢」

鎌倉からの移転で
銀座の楽しみが
ひとつ増えました

「古美術桃青」は、昨年11月に、鎌倉由比
が浜通りから、銀座7丁目に移転してきた
ニューフェイス。

「由比が浜通りにあったころから、ほかの
お店とはひと味違う、個性的な品揃えに魅
せられていました」という平松さん。

ご主人・富永民雄さんの骨董好きが高じ
て始めた古美術店は、箱書きなどにこだわ
らず、しかし確かな目で選ばれた名品が揃
います。得意、いや好きなジャンルは仏教
美術、李朝、古い時代の茶道具など。愛ら
しい動物を象った品々や仏像などがさりげ
なく置かれ、無理のない支払いができるよ
う、相談に応じてくれることから、若いフ
アンが多いのもこころしき。

「これまでに、李朝初期の扁壺と巡り合わ
せてもらいましたが、私自身の所蔵品の中
ではピカイチの存在。ご夫婦でなさってい
るお店ですが、おふたりの人柄もまた素敵
で、おしゃべりに行きたいなと思いつつ、
これまで鎌倉はやっぱりちよつと遠くて」
銀座への移転は、平松さんとしても大拍

手。小さくて居心地のいいお茶室もあり、
銀座にこんな空間ができたことも、貴重。
「ご主人の骨董解説も楽しくて、銀座の楽
しみがまたひとつ、増えました」

ひらまつ よつこ
エッセイスト、フードジャーナリスト。国内
をはじめ、アジア各地を取材し、食と暮らし
の関わりをテーマに執筆活動を行う。日常生
活のリアリティを大切にしながら、食やその
周辺にあるものの魅力を伝える独自の感性と
文筆には定評がある。食に関する著書多数。
最新刊は『平松洋子のカジュアルに骨董を楽
しむ暮らし』（主婦の友社）。李朝陶磁器への
造詣も深く、コレクションもなかなかのもの。